

河南町総合戦略推進会議 議事要旨

日時：平成 27 年 8 月 7 日（金）午前 10 時～11 時

場所：河南町役場 4 階 大会議室南

1. 開会

2. 町長あいさつ（武田勝玄町長）

第 1 回目の総合戦略推進会議を開催にあたり、一言ご挨拶申し上げたい。人口減少社会の本格的な到来は、市町村の行く末を語れないほどとなっている。

発端は、中央公論（2014 年 6 月号）に掲載された「消滅可能性都市」の議論であり、雑誌・メディアに幾度となく人口問題について取り上げられている。最近は、今後大きく増加することが見込まれる東京圏の高齢者に地方へ移住してもらおうという議論も出始めている。国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）の将来推計では、河南町の人口は、2040 年に 12,500 人、2060 年には 8,900 人になると推計されている。

ヨーロッパ諸国では、たとえばドイツは 8,000 万というような人口でも幸せに暮らしているように見える。問題なのは、人口が減少することではなく、少子化による子どもの減少、生産年齢人口の減少、高齢者の増加など、人口構造の変化である。こうした状況に対し、日本全国の市町村をあげて、人口問題への対策がスタートしている。

全国の自治体が、今年度中に「人口ビジョン」を掲げ、「総合戦略」を練るというミッションを受けて、このたび、産官学等の皆さまにご参加いただいて、推進会議を開催する。皆さまの活発なご意見をお願いしたい。

3. 委嘱状の交付

<武田町長より各委員に交付>

4. 委員自己紹介

<順番に各委員より一言ずつの自己紹介>

5. 案件

(1) 会長・副会長の選出

(事務局)

- ・「河南町総合戦略推進会議規則」第 4 条第 1 項に、委員の互選により会長を選出するとあるが、どなたかご推薦はあるか。

(委員)

- ・「大阪芸大の中に、河南町がある」とも言われることもあり、総合計画審議会の会長は芸大の先生がされていた。今回も芸大の柿沼先生にお願いしたらどうか。

<全員が了承の拍手>

(事務局)

- ・では、会長を柿沼委員にお願いしたい。同3項に副会長を置くことになっているが、いかがか。

(委員)

- ・地域の状況にも詳しい区長会の槇野委員はどうか。
＜全員が了承の拍手＞

(柿沼会長)

- ・ご推薦いただいたので、微力だが、会長の役割を果たしたい。プロジェクトチームの多岐にわたる議論をもとに、この総合戦略をまとめていければと思う。
- ・今日の人口減少の動向は、長期的な視点に立って見れば、人口波動の一局面と言うこともできる。町長のお話にもあったように、人口減少はマイナスの要素だけでなく、メリットもある。今までの常識をひっくり返すような発想も必要になるだろう。皆さまの活発な意見をいただきながら、よりよいものにしていきたい。

(事務局)

- ・以降の進行は、柿沼会長にお願いしたい。

(2) 会議の公開について

(柿沼会長)

- ・本推進会議について、傍聴についての規定はないが、特に非公開にする必要も見当たらない。町民の関心も高くテーマであり、会議は公開として行いたい。
＜全員が異議なし＞
 - ・町で必要事項を定めてほしい。

(3) 河南町の人口について

＜事務局より資料1、2にもとづき説明＞

- ・最初に、検討体制についてだが、資料1の通り、産官学などの団体や住民等で構成される「推進会議」、庁内部長級で構成される「創生推進本部」、そして庁内の若手職員が「まち、ひと、しごと」のテーマ毎に分かれて構成される「総合戦略隊 (TPP)」の三層構造で検討を進めていくこととしている。
- ・【河南町の人口の現状と社人研の推計】についてスライドで説明する。人口は、大宝地区の開発で急増し、その後も他の開発のたびに増え、開発が落ちついた平成17年の17,545人をピークに減少に転じたが、世帯数は依然増加を続けている。人口増加の主な要因は、社会増によるものだった。出生動向については、出生数はかつて概ね100人程度であったが、平成25年には67人となった。近年の合計特殊出生率は、全国・大阪府の値は上昇しているが、分母の女性数が減少しているので、出生数(実数)は減少している。人口維持のためには2.07の合計特殊出生率が必要と言われている。

- ・続いて、社人研による将来の人口推計について紹介する。人口の社会移動が収束するという仮定のもと推計されている。人口総数は、平成 52 (2040) 年には、12,500 人と予測されており、老年人口の増加と生産年齢人口の減少が続き、1.3 人の生産年齢人口で、老年人口 1 人を支えるという人口構造となると推計されている。また、女性人口の推移を見ると、平成 52 (2040) 年には、15 歳から 49 歳の女性人口の減少率は 55%、20 歳から 39 歳の女性人口は 60%と大きく減少すると見込まれている。
- ・男女別の純移動数では、20～24 歳→25～29 歳の減少数が大きくなっているが、これは、芸大生の転出によるものと考えられる。

(事務局)

- ・悲観的な説明のように聞こえるかもしれないが、この推計は、あくまで、社人研の推計であり、こうならないようにするために、どうするかについて考えていきたい。あまりこの数字に囚われなくて、次のステップということで考えてもらえればよい。
- ・こうした人口の問題に対して、TPP (トータルプランニングパーティ) と称して、19 名の若手の職員で、どうしていくかを考えている。
- ・現在、「総合戦略隊 (TPP)」では、ワークショップ方式で議論を進めている。ワールドカフェ方式で皆が自由な発想で広く意見を出しあい、KJ 法でまとめていく作業を進めてきた。次回の委員会では、こうした検討をもとにした骨子案をお示ししたい。

(柿沼会長)

- ・9 ページにあるグラフのいびつな転出数は、説明にあったように芸大生の転出によるものだが、近年の状況について補足したい。5,800 人の学生の 2 名に 1 名が奨学金を得て、在学している。かつては、遠方の学生が多かったが、近年は自宅通学の学生が増えており、近畿圏内からの入学者数も多くなっている。デフレ経済下における大学・学生の現状でもあり、かなりの遠方の名張や、兵庫県姫路市の先にある高砂市宝殿から 3 時間かけて、通学している学生もいる。

(委員)

- ・卒業後、学生はどこに住むのか。

(柿沼会長)

- ・学生の就職先は、就職部で紹介しているが、昨今は、自分で就職先を探している学生も多い。卒業後の居住地については、卒業時に OB 会に住所地を届け出るが、その時点では、住所が決まっていない学生も多く、実家を登録する学生も多いため、現状の把握は難しい。河南町に住むのがいいという働きかけについては、特に大学としてはしていない。

(委員)

- ・河南町の中でバイト先が少ないと聞く。サンプラザの夕方のレジに並んでいるようだ。息

子は立命館大学と大阪府立大を出ているが、立命館大の息子は下宿した。就職先は河南町以外で、芸大生も、もう一回河南町に帰ってくるというイメージがでてくればよい。

(柿沼会長)

- ・学生のバイト先は、天王寺等の大阪の都心部が多いと聞く。喜志駅からいわゆる「芸村」まで歩いて45分で、忙しい学生生活の中で、バイトと両立させるために、喜志駅の近くで、下宿をするようになっている。

(槇野副会長)

- ・本来、学生は、4年経てば、河南町を出ていくもので、芸大のおかげで、人口動向も良かったけれど、本来の数値とは違うと思うので、それを織り込んで検討しておくべきだ。

6. 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・資料4にスケジュールを示している。次回の推進会議は9月末日処に開催し、人口ビジョン及び戦略会議の骨子案をお示ししたい。第3回には、人口ビジョン及び総合戦略の素案をまとめ、第4回では、成案としたい。また、住民の意見を聞けるように、タウンミーティングの開催も予定している。

(柿沼会長)

- ・スケジュールに関して、質問はあるか。

(全員)

- ・なし。

(柿沼会長)

- ・次回の推進会議を9月末頃に設定したい。連休の後、24日(木)、28日(月)の午後3時以降で都合のよい日に決めたいが、皆さまのご都合はどうか。
- ・24日(木)の方が、都合がいい方が多いので、同日午後3時、4F本会場で開催したい。

(事務局)

- ・会議開催のご案内は改めてさせていただく。本日は、ありがとうございました。

以上